令和２年度 鹿屋市 市民講座　ー 吾平振興会館 ー

吾平を中心とした大隅の魅力と驚きの再発見！

第６回　名所旧跡などの見学会

令和２年 11 月 21 日（土）　案内者：朝倉悦郎

＜お願い＞①安全運転とコロナ対策の厳守。②午前午後ともに１時間半くらいトイレがない時間帯があるので、緊急時はコンビニ等を利用して下さい。案内者に連絡いただければ車を停めて待ちます。③ご自分の体調を考慮して、無理して見学せずに、車中で待つことも構いません。

１　見学会の計画概要

前回の本講座で、聴講者の方々からアンケートを取り、ご希望の多かった以下の見学場所コース・方法・条件で名所旧跡等を見学することにします。

① **集合時刻**：8 時 45 分（出発時刻：9 時、集合場所への帰着予定時刻：16 時）
② **集合場所**：吾平振興会館 1 階ロビー
③ **見学方法**：数台のマイカーに分乗して、名所旧跡などを回り、案内者が説明する。
④ **見学予定コース**：

【午前】吾平振興会館（トイレ）9:00 発 →（約 10 分で肝付町宮下）**①桜迫神社**と**②神代聖蹟西洲宮跡**、→（宮富地区公民館に車を移動）**③神武天皇御降誕傳**説**地**と**④イヤ塚** →（約 15 分で肝付町津曲）**⑤ウガヤの生誕地** →（約 10 分で東串良町柏原の港の近くにあるトイレ）→（約 1 分で柏原)**⑥神武天皇御発航伝説地** →（約 5 分で肝付町波見）**⑦神武天皇御発航伝説地**【登り口まで行き、足場が悪いので石碑の見学は中止】 →（約 35 分で）吾平物産館つわぶき（トイレ）

【昼食】吾平物産館つわぶき（☎0994-58-8907；トイレ）…各自で希望の料理を注文し支払いする。

【午後】吾平物産館つわぶき（トイレ）→（約 14 分で吾平町木場）**⑧立神公園** →（約 6 分で吾平町平瀬）**⑨苫野の溶結凝灰岩** →（約 2 分で吾平町門前）**⑩吾平の含粒寺跡** →（約 13 分で南町）**⑪南の含粒寺跡** →（約 10 分で大姶良町）**⑫龍翔寺跡** →（約 10 分で浜田町海岸）**⑬玉山禅師上陸之地**（公園内にトイレ）→（約 3 分で浜田町古寺屋敷）**⑭呑海庵跡**→（約 20 分で）吾平振興会館（トイレ）16:00 着

２　名所旧跡などの概要説明

① 桜迫神社と② 神代聖蹟西洲宮跡（肝付町宮下）

桜迫神社（おうさこじんじゃ）には、ウガヤフキアエズノミコト（神武天皇の尊父）が祀られています。ここはウガヤフキアエズノミコトの宮居（皇居）である西洲宮（にしのくにのみや）跡で、神武天皇の生育の地と伝えられています。

神社境内の南西側の雑草が生い茂った空地に、「神代聖蹟西洲宮」の石碑があり、昭和１５年に「神代聖蹟」として鹿児島県知事の指定を受けています。

③ 神武天皇御降誕傳説地と④ イヤ塚（肝付町宮下）

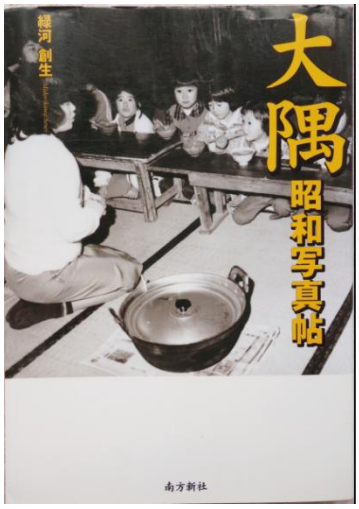
「神武天皇御降誕傳説地」の石碑は、もともとは河川敷にありましたが石碑の下部は陥没して埋もれていたそうです。堤防ができた際に、地元の人が私費で現在の位置に移設し整備しました。ここの真南に吾平山陵があると地元の老人から聴きました。

肝属川の古い渡船場に当たる水上棚は、玉依姫がここを通過された時に俄かに御産気を催させ給うて、御産屋が営まれ神武天皇が御降誕遊ばされた所と伝えられています。胎児を包んでいた膜や胎盤などを胞衣（えな）といいますが、地元の方言でイヤといいます。イヤ塚は、神武天皇がお産まれになった時の胞衣を埋めた場所です。

桜迫神社	**神代聖蹟西洲宮跡**	**神武天皇御降誕傳説地**	**イヤ塚**

⑤ ウガヤの生誕地（肝付町津曲）

緑河創生著「大隅 昭和写真帖」（株式会社南方新社、2007 年発行）に、「ウガヤの生誕地」というページがあります。その場所は肝付町津曲の森神社跡で、昔はその神殿内に石棺の一部が露出していたそうです。１つ残る石板は、古墳にあった石室の 3 枚の蓋石の 1 つで、本に書いてあるように、ここは「今は水田になってしまった旧肝属川沿いの竜神宮の拝殿跡地前」でありましょう。



ウガヤの生誕地

神武天皇の尊父、ウガヤフキアエズノミコトは西洲宮（今の肝属郡肝付町宮下、屯倉、富山、島見山一帯）で別御され、吾平山陵（田口岡）に葬られたと記述が日本書紀にある。そのウガヤ……つまり「波限建鵜葺草葺不合命」（古事記）の生誕地は、この大隅にある。

昭和三十年発行の史談誌「大隅」（2号）に、唐仁（肝属郡東串良町）の大塚神社神主の島戸堅智が書いているように、その場所は森神社跡（肝付町津曲の森岡正吉家地）である。森神社をこの集落では竜神宮（神社）といい、別名ヘビ宮の呼称がある。

現在は無いが、大正三、四年頃までの古い神殿は竹小屋風（円錐形）で、その中に七尋半のメスの竜がトグロを巻いていた。そして十三尋のオスの竜がその竹小屋にからみついて、外側からちょうど鵜竜を守っている格好だった。

高隈山方向の西に向かっては、三、四メートルの本造の拝殿があり、珍しい竹製の神殿までは四メートルほどあったという。年に一度大祭（十二月二十八日）があり、高さ二メートル程度の竹の神殿と茅の竜は、そのたびに作りかえられたそうである。メスの竜がにらみをきかしていたその神殿内には神石、いや石棺の一部が露出していたらしい。そこには一本の柿の木が目印のように残っている。昭和六年発行の「肝属平野の古代文化」（鳥戸貞良）の中に、「森関神社の境内は古墳であり、近年田地になった際、立派な大きな十器が二つ出、石室の蓋石は一枚あって」とある。

その石室の蓋石とみられる三枚のみかげ石が確認されている。一枚は平田明七庭横の道路沿いにイボ（蛇）の神として、もう一枚は田中昇宅裏庭の丁字路角に安産の神として祀ってある。残りの一枚は今は水田となってしまった旧肝属川沿いの竜神宮の拝殿跡地前に立っている。いずれも二メートル余りの長さの一枚石で、丹念に仕上げられており、埋葬されていたのはよほど位の高い人物（大王）のものと推測が成り立つ。

竜神宮跡を指し示す坂口伝左衛さん

10 月 20 日に下見にきた時に、生誕地に隣接する家主の森園氏（86 歳）が、畑の耕作のために現在お住いの根占から来ておられたので、以下のお話を聴きました。「ここはトヨタマヒメが急に産気づき、ウガヤフキアエズノミコトを出産した場所。昔は 12 月 28 日に地元の人が一握りのワラを持ち寄って長さ 11 ヒロ（16.5m）と 33 ヒロ

（49.5m）のしめ縄を作り、蛇の姿にして飾る祭りがあり、また 3 月 17 日の野崎地区の鎌踊りの時は、最初にここで踊ってから野崎に戻って踊ったが、今はそれらが廃れた。ここの石板は吾平山陵を向いている。2, 3 年前に鹿大の研究者が掘って調査した。」

⑥ 神武天皇御発航伝説地（東串良町柏原）

肝属川が志布志湾に出る河口近くの両側の高みに、向かい合うように「神武天皇御発航伝説地」の石碑があります。一つは、東串良町柏原にある戸柱神社に至る階段を登った右側の境内にあります。今回は、目的地にも近くて、駐車もできる円山公園 ふれあいの森キャンプ場から行きます。戸柱神社の祭神はスサノオノミコト（須佐之男命）、ヤチマタヒコ（八衢比古神）、ヤチマヒメ（八衢比売神）の 3 柱です。

なお、東串良郷土誌には、県が皇紀 2600 年を記念して、神武天皇聖蹟調査会を組織され、昭和 15 年 11 月 19 日に県知事が神武天皇聖蹟地として指定して、柏原海岸松林内、戸柱神社の東の方に、神武天皇御発航伝説地の記念碑を建立したと書いてあります。

⑦ 神武天皇御発航伝説地（肝付町波見）… 登り口まで行き、足場が悪いので石碑の見学中止

もう一つは、肝付町波見の戸柱神社横の長い階段を登り切った権現山斜面の、大隅花崗岩の上にあります。神社の祭神はサルタヒコ（猿田毘古神）、オオナムチ（大己貴神、大国主）、オオワタツミ（大綿津見神）など 8 柱です。

なお、神武天皇が日向国を出立なさった当時の日向国は、薩摩国・大隅国・日向国全部を含んでいました（西暦 713 年に大隅国として分立）。

⑧ 立神公園（吾平町木場）

平成４年に地元の人たちが中心となって整備して作った「立神（たてがみ）公園」です。岩には、「立神」、「不動岩」「親子岩」などの名前が付けられ、それぞれ家内安全、五穀豊穣、安産の御利益があるとされています。そのため、パワースポットでもあります。

奇岩の成因は、約 11 万年前の阿多北部カルデラの大爆発に由来する阿多溶結凝灰岩（阿多火砕流により厚く積もった火山灰と石が熱と圧密で固まった岩）の柱状節理を持つ岩体（岩が冷えて固まる際に収縮して柱が集まったように岩が割れたもの）の中で、風化に耐えて残った岩柱であると考えられています。

神武天皇御発航伝説地(左が柏原、右が波見)

立神公園

⑨ 苫野の溶結凝灰岩（吾平町平瀬）

苫野川に阿多火砕流の熔結凝灰岩に薬草になるセキショウが生えていて、花瀬川上流と同じ組み合わせであり、景色も似ています。

⑩ 吾平の含粒寺跡（吾平町門前）

７代島津元久の長男・忠翁和尚が正長 2（1429）年に建てた曹洞宗・福昌寺の末寺です。忠翁和尚は文安 2（1445）年に亡くなりました。忠翁和尚の母（島津元久夫人）と妹の墓もありました。含粒寺は山中八景といって、当時は八つの美しい景色（山頂羅漢、屋後の瀑布、座禅石、南池白蓮、大谷藪竹、門頭屏風岩、囲山流水、寺前石橋）

を見ることのできる場所でした。お坊さん等の墓が 28 基ありました。含粒寺は約 440 年間続きましたが、明治 2（1869）年に廃寺になり、南地区の玄朗寺と合体して再興されました。ここは湧き水があるためマムシが多いので、ヤブに入らないでください。

⑪ 南の含粒寺跡（南町）

含粒寺はもともと吾平町門前にあった寺で、明治２年廃寺となった後、ここにあった玄朗寺と合体させて含粒禅寺としたものです。ここの石造群は見事で、仁王像２対、地蔵、観音、薬師などが残る。特に門の前にある六地蔵塔〔主に戦国時代に盛んに造られた石塔で､側面に6体の地蔵像が彫られているという特徴がある〕は永禄8年（1565年）の庚申供養に結集した人々の氏名が墨書きで記されています。六地蔵信仰と庚申信仰〔庚申の日に徹夜して眠らず，身を慎めば長生できるという信仰〕の習合体としては県下で一番古いものとされます。なお、墨で書いた文字が約 500 年後の今も鮮やかに読み取れるのは、カマキリの小水を水代わりに使って墨を摺ったからであると故隈元信一氏から聴きました。

苫野の熔結凝灰岩とセキショウ

吾平の含粒寺跡

南の含粒寺跡

⑫ 龍翔寺跡（大姶良町）

日本百僧の一人に数えられる名僧の玉山玄堤（ぎょくざんげんてい）和尚は、浜田の呑海庵に住んでいましたが、大姶良城主の楡井頼仲の招きにより、大姶良に「瑞雲山龍翔寺」を、志布志に「大慈寺」を建立して初代住職となりました。龍翔寺は 560 年ほど続きましたが、明治初年からの廃仏毀釈で壊されてしまいました。この寺には島津 6 代氏久の供養塔と遺命により氏久夫婦の墓塔もありましたが､昭和 50 年ころに鹿児島市の島津墓地に移されました。今は大きな石柵だけが残っています。

なお、横にある墓地に、上皇陛下の家庭教師、学習院大学教授、県立第二鹿児島中学(現甲南高)校長、県教育会長をされた池田俊彦氏のお墓があります。

⑬ 玉山禅師上陸之地と⑭ 呑海庵跡（浜田町）

名僧の玉山玄堤和尚は、若い頃に京都南禅寺の大明国師の跡とりとなり、2 回唐に渡って修行しました。2 回目の帰国の際に暴風雨に遭って、当時「葦が港」と呼ばれていた浜田海岸に漂着しました。海岸に「玉山禅師上陸之地」記念碑があります。

玉山玄堤和尚は、海岸近くの古寺屋敷に「呑海庵」をむすび、住民教化に努められました。その呑海庵跡に、唯一残る地蔵菩薩は、右手に錫杖(僧侶が持つ魔除けの杖)、左手に宝珠（玉葱のような形の仏の持ち物）のようなものを持っておられます。故隈元信一氏によれば江戸時代前期の作とのことでした。

龍翔寺跡

玉山禅師上陸之地記念碑

呑海庵跡にある地蔵菩薩

「名所旧跡などの見学会」実施記録

令和２年 11 月 21 日（土）に、18 名がマイカー 5 台に乗り合わせて、見学希望者数の多かった名所旧跡 14 ヶ所を回りました。

今回、何より感激したのは、津曲のウガヤフキアエズノミコトの生誕地では、先月の下見の際にお会いした森園さんが草刈りをして下さっていたことと、宮下のイヤ塚、大姶良の龍翔寺跡、浜田の呑海庵跡では、個人宅の庭を通ったり駐車場を使うことを家主さんが快諾して下さったことです。

多くの地元の方々のご支援と好天に恵まれ、トラブルもなく、快適な見学会になりました。

「ウガヤフキアエズノミコトの生誕地」

下見時の「ウガヤフキアエズノミコトの生誕地」

柏原にある「神武天皇御発航伝説地」の石碑

吾平にある「立神公園」

南にある「含粒寺跡」での集合写真

「物産館つわぶき」で昼食